⑰　ＵＰＢ＃４

ＵＰＢ＃４は、⑵において、「ＸＯＲ＃１」を「ＸＯＲ＃４」に、「Ｕ１」を「Ｕ４」に、「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃14」に、「Ｂ１」を「Ｂ４」に、「Ｂ１Ｐ」を「Ｂ４Ｐ」に、及び「ＴＲＩＧＢ＃11」を「ＴＲＩＧＢ＃14」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

⑱　ＴＲＩＧＢ＃14

ＴＲＩＧＢ＃14は、⑶において、「ＵＰＢ＃１」を「ＵＰＢ＃４」に、「Ｂ１Ｐ」を「Ｂ４Ｐ」に、「Ｂ１Ｒ」を「Ｂ４Ｒ」に、及び「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃14」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

⑲　ＤＥＬＡＹ＃14

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

⑳　ＦＭＵＬＴ＃14

ＦＭＵＬＴ＃14は、⑸において、「ＤＥＬＡＹ＃21」を「ＤＥＬＡＹ＃24」に、「ＤＱ１」を「ＤＱ４」に、「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃14」に、「Ｂ１」を「Ｂ４」に、及び「ＷＢ１」を「ＷＢ４」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉑　ＸＯＲ＃５

ＸＯＲ＃５は、⑴において、「ＤＥＬＡＹ＃21」を「ＤＥＬＡＹ＃25」に、「ＤＱ１」を「ＤＱ５」に、「Ｕ１」を「Ｕ５」に、及び「ＵＰＢ＃１」を「ＵＰＢ＃５」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉒　ＵＰＢ＃５

ＵＰＢ＃５は、⑵において、「ＸＯＲ＃１」を「ＸＯＲ＃５」に、「Ｕ１」を「Ｕ５」に、「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃15」に、「Ｂ１」を「Ｂ５」に、「Ｂ１Ｐ」を「Ｂ５Ｐ」に、及び「ＴＲＩＧＢ＃11」を「ＴＲＩＧＢ＃15」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉓　ＴＲＩＧＢ＃15

ＴＲＩＧＢ＃15は、⑶において、「ＵＰＢ＃１」を「ＵＰＢ＃５」に、「Ｂ１Ｐ」を「Ｂ５Ｐ」に、「Ｂ１Ｒ」を「Ｂ５Ｒ」に、及び「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃15」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉔　ＤＥＬＡＹ＃15

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㉕　ＦＭＵＬＴ＃15

ＦＭＵＬＴ＃15は、⑸において、「ＤＥＬＡＹ＃21」を「ＤＥＬＡＹ＃25」に、「ＤＱ１」を「ＤＱ５」に、「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃15」に、「Ｂ１」を「Ｂ５」に、及び「ＷＢ１」を「ＷＢ５」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉖　ＸＯＲ＃６

ＸＯＲ＃６は、⑴において、「ＤＥＬＡＹ＃21」を「ＤＥＬＡＹ＃26」に、「ＤＱ１」を「ＤＱ６」に、「Ｕ１」を「Ｕ６」に、及び「ＵＰＢ＃１」を「ＵＰＢ＃６」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉗　ＵＰＢ＃６

ＵＰＢ＃６は、⑵において、「ＸＯＲ＃１」を「ＸＯＲ＃６」に、「Ｕ１」を「Ｕ６」に、「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃16」に、「Ｂ１」を「Ｂ６」に、「Ｂ１Ｐ」を「Ｂ６Ｐ」に、及び「ＴＲＩＧＢ＃11」を「ＴＲＩＧＢ＃16」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉘　ＴＲＩＧＢ＃16

ＴＲＩＧＢ＃16は、⑶において、「ＵＰＢ＃１」を「ＵＰＢ＃６」に、「Ｂ１Ｐ」を「Ｂ６Ｐ」に、「Ｂ１Ｒ」を「Ｂ６Ｒ」に、及び「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃16」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉙　ＤＥＬＡＹ＃16

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㉚　ＦＭＵＬＴ＃16

ＦＭＵＬＴ＃16は、⑸において、「ＤＥＬＡＹ＃21」を「ＤＥＬＡＹ＃26」に、「ＤＱ１」を「ＤＱ６」に、「ＤＥＬＡＹ＃11」を「ＤＥＬＡＹ＃16」に、「Ｂ１」を「Ｂ６」に、及び「ＷＢ１」を「ＷＢ６」にそれぞれ読み替えたものと同等の機能を有する。

㉛　ＦＬＯＡＴＡ

ＦＬＯＡＴＡは、逆適応量子化器から出力されたＤＱを入力して次に示す計算によりＤＱ０を出力し、これをＤＥＬＡＹ＃21に入力する。

ＤＱＳ＝ＤＱ＞＞14

ＭＡＧ＝ＤＱ＆16383

$$\mathrm{EXP}=\begin{cases}14：8192\leqq \mathrm{MAG}\text{のとき}\\ 13：4096\leqq \mathrm{MAG}\leqq 8191\text{のとき}\\ 12：2048\leqq \mathrm{MAG}\leqq 4095\text{のとき}\\ 11：1024\leqq \mathrm{MAG}\leqq 2047\text{のとき}\\ 10：\ 512\leqq \mathrm{MAG}\leqq 1023\text{のとき}\\ 9：\ 256\leqq \mathrm{MAG}\leqq 511\text{のとき}\\ 8：\ 128\leqq \mathrm{MAG}\leqq 255\text{のとき}\\ 7：\ 64\leqq \mathrm{MAG}\leqq 127\text{のとき}\\ 6：\ 32\leqq \mathrm{MAG}\leqq 63\text{のとき}\\ 5：\ 16\leqq \mathrm{MAG}\leqq 31\text{のとき}\\ 4：\ 8\leqq \mathrm{MAG}\leqq 15\text{のとき}\\ 3：\ 4\leqq \mathrm{MAG}\leqq 7\text{のとき}\\ 2：\ 2\leqq \mathrm{MAG}\leqq 3\text{のとき}\\ 1：\ \mathrm{MAG}=1\text{のとき}\\ 0：\ \mathrm{MAG}=0\text{のとき}\end{cases}$$

$$\mathrm{MANT}=\begin{cases}1<<5 & ：\mathrm{MAG}=0\text{のとき}\\ (\mathrm{MAG}<<6)>>\mathrm{EXP} & ：\text{その他のとき}\end{cases}$$

ＤＱ０＝（ＤＱＳ＜＜10）＋（ＥＸＰ＜＜６）＋ＭＡＮＴ

㉜　ＤＥＬＡＹ＃21

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㉝　ＤＥＬＡＹ＃22

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㉞　ＤＥＬＡＹ＃23

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㉟　ＤＥＬＡＹ＃24

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㊱　ＤＥＬＡＹ＃25

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㊲　ＤＥＬＡＹ＃26

７の⑸に示すＤＥＬＡＹ＃１と同等の機能を有する。

㊳　ＡＤＤＣ

ＡＤＤＣは、逆適応量子化器から出力されたＤＱ及びＡＣＣＵＭから出力されたＳＥＺを入力して次に示す計算によりＰＫ０及びＳＩＧＰＫを出力し、ＰＫ０をＤＥＬＡＹ＃31に、ＳＩＧＰＫをＵＰＡ１及びＵＰＡ２にそれぞれ入力する。

ＤＱＳ＝ＤＱ＞＞14

$$\mathrm{DQI}=\begin{cases}\mathrm{DQ} & ：\mathrm{DQS}=0\text{のとき}\\ (65536-(\mathrm{DQ}\&16383))\&65535 & ：\mathrm{DQS}=1\text{のとき}\end{cases}$$

ＳＥＺＳ＝ＳＥＺ＞＞14

$$\mathrm{SEZI}=\begin{cases}\mathrm{SEZ} & ：\mathrm{SEZS}=0\text{のとき}\\ (1<<15)+\mathrm{SEZ} & ：\mathrm{SEZS}=1\text{のとき}\end{cases}$$